

# 総合的な学習の時間を中心とした異文化理解学習

澤 田 田津子・頓 宮 勝

(奈良教育大学教育学部)

植 西 浩 一・佐古田 康 義・奥 原 牧

中 嶋 た や・山 尾 文 夫・谷 口 尚 之

(奈良教育大学教育学部附属中学校)

## Report on cross-cultural Learning in Period for Integrated Study at Lower Secondary School

Tazuko SAWADA・Masaru TONGUU

(Nara University of Education)

Kouichi UENISHI・Yasuyosi SAKODA・Osamu OKUHARA

Taya NAKAJIMA・Fumio YAMAO・Naoyuki TANIGUCHI

(Junior High School attached to Nara University of Education)

**要旨：**附属中学校では、奈良教育大学在学の留学生の参加を得て、異文化理解教育を進めている。取り組みの内容は、学年での校外行事と学級単位の折り紙や新年の伝統行事を題材とした交流会である。多数の留学生の協力によって、単発的なイベントに終わらない継続的な交流ができ、学習者の異文化への関心が高まりつつある。

**キーワード：**カリキュラム curriculum、総合的な学習 integrated study、異文化理解学習 cross-cultural learning

### 1. 第一学年の総合的な学習の取り組みと 異文化理解学習

附属中学校では、本年度入学の第一学年より総合的な学習の取り組みを始めた。第一学年の総合学習のテーマは、『『ともに生きる力』の育成』である。

私たちは、この『『ともに生きる力』の育成』を、さらに次の二つの柱に分けた。

#### 1 協同

#### 2 異文化理解

1の「協同」は、仲間と協力し合って、ものづくりや行事活動に取り組む中で、一人ではできない大きな仕事を成し遂げさせたいと考えてのもので、前向きなものごとに取り組む集団づくりを目標としている。

2の「異文化理解」は、特に、第一学年後半の総合的な学習の柱となるもので、本プロジェクトは、この学習への取り組みである。この学習では、総合的な学習の時間だけでなく、教科および道徳ともリンクさせ、重層的なカリキュラムを編成した。学習の概要は次に示すとおりである。

#### ○ 「総合的な学習の時間」

留学生の案内による国立民族学博物館の見学と、中学生が留学生を案内しての奈良めぐりの計画と実践を核にしながら、学級単位での継続的な交流を行い、異文化理解を深める。総合的な学習の時間の主な取り組みは次のとおりである。

- ① 学級単位での留学生歓迎と折り紙交流会
- ② 国立民族学博物館の見学－課題にそって、留学生とともに、博物館を見学し、取材したことをグループで新聞にまとめる。
- ③ 学級ごとの新年伝統行事交流会
- ④ 留学生を案内しての奈良町めぐり
- ⑤ 奈良町めぐり報告会
- ⑥ 留学生を招いての学年音楽会

#### ○ 道徳での学習

「他者理解」、「異文化理解」を目標とした各学級での道徳の学習。

#### ○ 国語科での学習

- ① 「漢字について考える－中国からの留学生を招いてのT・Tによる漢字学習－」
- ② 「上海からの手紙－上海の日本語を学ぶ大学生との交流学习－」

本プロジェクトでは、このうち総合的な学習の時間の取り組みにおいて、奈良教育大学の留学生を招いて、学部と附属の連携による継続的な取り組みを組織した。

## 2. 異文化理解学習の実際

学級単位での留学生歓迎と折り紙交流の会は、2000年11月8日、午後実施した。15名の留学生の参加が得られ、生徒たちと留学生との大切な出会いの場となった。準備期間がわずかであったにもかかわらず、どのクラスの生徒も積極的に取り組み、あたたかい雰囲気での交流が持てたのではないかと考えている。それぞれのクラスで独自の工夫がなされたが、基本的には、次のような目標とプログラムにそって取り組みが進められた。

### 〔目標〕

- 学級担当の留学生の方とあたたかい心に残る出会いをし、以後の交流会を楽しく進められるようにする。
- 「折り紙」という日本の伝統文化を外国の方に伝えることを通して交流をし、さらに、自分たちの国の文化を見直すきっかけとする。
- 留学生の方との交流を通して、「国際理解」に関心を持ち、「コミュニケーション」の大切さについて考える。

### 〔プログラム〕

〔折り紙交流会 2:00～3:00 各学級教室〕

- 2:00 留学生さんを迎えて・歓迎の挨拶（室長または副室長）  
\*あたたかい雰囲気でクラス全体で迎える。  
挨拶には、できれば、英語も取り入れてクラスの様子ができるようにする。留学生さんの紹介（担任より）と自己紹介。
- 2:05 折り紙で年中行事を伝える  
 { お雛様・桃の節句・雛祭り  
 かぶと・端午の節句・子どもの日  
 鯉のぼり  
 クリスマスツリー・クリスマス }
- 日本にとけこんだ異文化
- 2:15 千羽鶴をみんなの手で  
～願い事を鶴に託して～  
他の国では、どんなものに託すのかを聞いてみる。  
～平和を願って～  
西洋では鳩?…このあたりも話題に  
「附中・平和の集い」についても紹介する。
- 2:30 大きな折り鶴を力を合わせて折ってみる。  
模造紙を使って、留学生さんも交え協同で一緒に一つのものを作る。
- 2:40 折り紙を楽しむ

だまし舟、相撲など

少し柔らかな雰囲気と一緒に楽しむ。

- 2:55 閉会のことば（副室長または室長）  
3:00 閉会

一 目標は、達成できましたか。

1 あたたかく、楽しい交流会にできたか?

① コミュニケーション ② マナー ③ グループ活動

2 折り紙を通して日本文化を伝えられたか?

3 「国際交流」に関心が持てたか?

コメント  
留学生のひとと席が遠く、交流したかったけど、少し無理があったみたいだった。でも1つの鶴を折るときは、みんなで協力合って、心が1つになった感じがした。次はもっと話したい。

二 今回の交流を振り返っての、反省点を書いてください。  
みんなが留学生のひとと話しができるように、その人を中心に輪になったり、また1人の留学生だけでなく、たくさんの人と話し交流したい。また、もう少し「聞く耳」を持てばよかったと思う。

三 反省点をふまえ、10日の社会見学をより楽しく盛り込みのものにするには、どうすればよいと思いますか。  
自分達から積極的に留学生の人の所へ行き、そしてたくさんの人とふれ合い、どんな事でいいから話して、貴重な機会を最大限に利用したい。

四 今回の交流を通して感じたこと・考えたことを自由に書いてください  
異文化理解は大切なものだったと思った。お互いに認め合うことで輪が広がり、世界がいろいろな色に染められていくから。また、同じ人間として、留学生の人の優しさも感じられ、いい経験となるだろう。

当日の様子を生徒の自己評価を通してみておく。

国立民族学博物館の見学は、折り紙交流会に続いて、11月10日に実施した。ここでも、15名の留学生の参加があり、共に、博物館を見学し、生徒たちは取材したことをグループ新聞やレポートにまとめた。留学生には、特に「ものの広場」で自分の国の教科書を手にし

韓国

・ハンガル文字（日本のひらがなにあたるもの）  
トキヨキミナミ

・ハンガルは、母音と子音を組み合わせることでできている。  
例：ト + ア = トア 上 + り = 上り

書き順：日本語と同じ順。

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

お か ん ぎ ま な け  
오 카 자 키 마 나 미

・アンニョン ハセヨウ （こんにちは）  
アンニョン ハシムニカ （おはよう）  
親しい人には「アンニョン」  
だ「けて」も OK。

・カムサ ハンムニタ （ありがとう）  
・ミアン ハムニタ （ごめんなさい）  
・ドムブ（どうぶ） ・チュッパ （あげろ）  
・メミ（せみ） ・キチー（箸）

て、その国の言語の特色や小学校の授業等について話してもらった。次に示すものがその際のメモの一端である。

午後には、秋の日差しの中でグループごとに留学生を囲んでゲームや軽スポーツを楽しんだ。和気あいあいとした交流ができたのではないかなと思う。

学級ごとの新年伝統行事交流会は、2001年1月17日に開かれた。参加留学生は7名であった。各クラスの取り組みは、1組・凧作りと凧揚げ、2組・餅つき、3組・お茶会、4組・こままわし、竹とんぼなどである。

交流も3回目であり、どのクラスでも活動を通したなごやかな交流ができた。生徒の感想の一端を示す。

連凧を作っているときに、留学生さんがきてくれました。「こんにちは」と言われたので、「こんにちは」と言いました。一緒に凧を作ることができて、よかったと思いました。留学生さんの一人が、帰る時間になってもまだずっとやっていて、(周りから声をかけられて)「えっ、もう行くの」と言ったとき、成功したなと思いました。

日本の伝統はすぐに伝わるものではないので、外国の人に伝えるにはその人を楽しんでもらって、自分たちも楽しまなければ伝わらないと思う。僕は、外国の方が本当に楽しそうに餅をついていたので、この機会があつてよかったと思う。21世紀は、こんな時代になつたらいいと思う。

なお、奈良町めぐり、音楽会については、現在、実施にむけて準備を進めている。

### 3. 活動を振り返って

指導者も学習者もはじめての試みであったが、奈良教育大学の留学生の協力を得て、実りある取り組みになったのではないかなと思う。特に、継続的な交流を重ねる中で、生徒たちと留学生が親密になり、取り組みへの意欲と異文化への関心が高まったことを成果として挙げたい。今後は、小グループや個人としての取り組みをさらに充実させ、まだ関心・意欲の低い学習者の意識を変えていきたいと考えている。